

経営比較分析表（令和5年度決算）

熊本県地方独立行政法人くまもと県北病院　くまもと県北病院

法適用区分	業種名・事業名	病院区分	類似区分	管理者の情報
地方独立行政法人	病院事業	一般病院	400床以上～500床未満	非設置
経営形態	診療科数	DPC対象病院	特殊診療機能 ※1	指定病院の状況 ※2
直営	32	対象	ド透	救 臨 災 地 輪
人口（人）	建物面積（㎡）	不採算地区病院	不採算地区中核病院	看護配置
－	34,122	－	第2種該当	7：1

※1　ド…人間ドック　透…人工透析　I…ICU・CCU　未…NICU・未熟児室　訓…運動機能訓練室　ガ…ガン（放射線）診療

※2　救…救急告示病院　臨…臨床研修病院　が…がん診療連携拠点病院　感…感染症指定医療機関　へ…へき地医療拠点病院　災…災害拠点病院　地…地域医療支援病院　特…特定機能病院　輪…病院群輪番制病院

許可病床（一般）	許可病床（療養）	許可病床（結核）
402	－	－
許可病床（精神）	許可病床（感染症）	許可病床（合計）
－	－	402
最大使用病床（一般）	最大使用病床（療養）	最大使用病床（一般＋療養）
363	－	363

■ 当該病院値（当該値）
－ 類似病院平均値（平均値）
【】 令和5年度全国平均

経営強化に係る主な取組（直近の実施時期）

機能分化・連携強化 （従来の再編・ネットワーク化を含む）	地方独立行政法人化	指定管理者制度導入
－ 年度	－ 年度	－ 年度

I 地域において担っている役割

当院は地域の皆様に安心と信頼を提供する県北の中核病院を目指しています。

県北の小児医療を含めて24時間の救急医療を提供しています。急性期医療に関しては心臓カテーテル検査、内視鏡、人工呼吸器管理、緊急透析等を実施しています。
また、地域医療支援病院として、かかりつけ医からの紹介患者に対する医療提供、医療機器等の共同利用の実施等を通じて、地域医療を担うかかりつけ医等を支援し、地域医療の確保を図る役割を担っています。地域には緩和ケア病棟はありませんが、地域との連携により終末期患者を支援しています。当院では在宅医療のバックベツドとして訪問診療や地域医師とのダブル主治医として活動しています。そして、病院フェスタでは病院施設を開放して地域の方と触れ合うことにより交流を深めています。

II 分析欄

1. 経営の健全性・効率性について

コロナウイルス感染症が2類から5類に移行したことに伴い、新型コロナウイルス感染症等入院確保事業補助金が大きく減額しました。入院単価、外来単価が上昇したことにより医業収益は増加しましたが補助金の減額分を補うほどではありませんでした。入院患者1人1日当たり収益については前年から上昇しましたが類似病院、全国平均に比べ低い状況です。引き続き増加できるよう取り組んでいきます。

病床利用率に関しては類似病院、全国平均を上回っていますが、前年から低下しています。平均在院日数の短縮を継続しながら、患者増のための取り組みが必要と考えています。

2. 老朽化の状況について

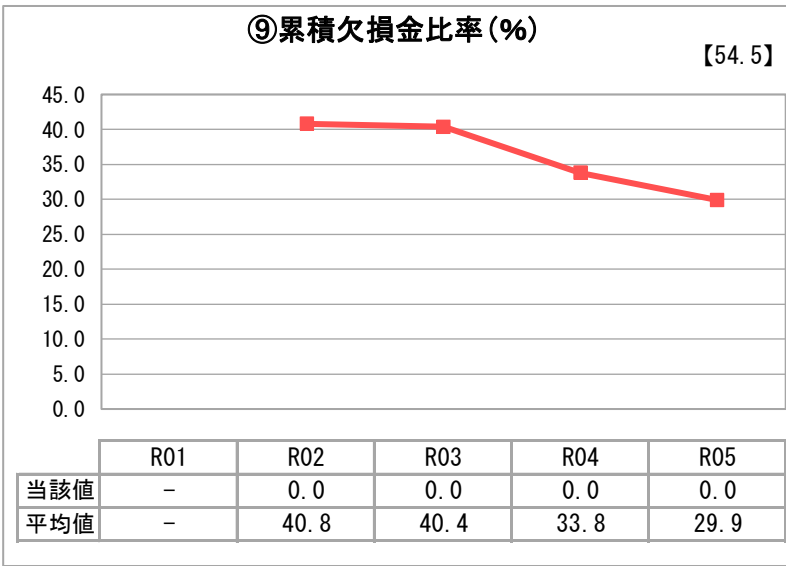
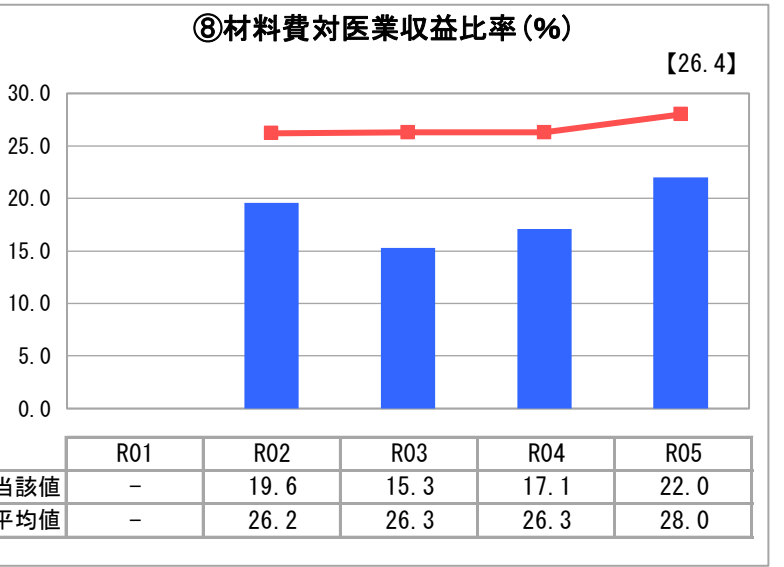
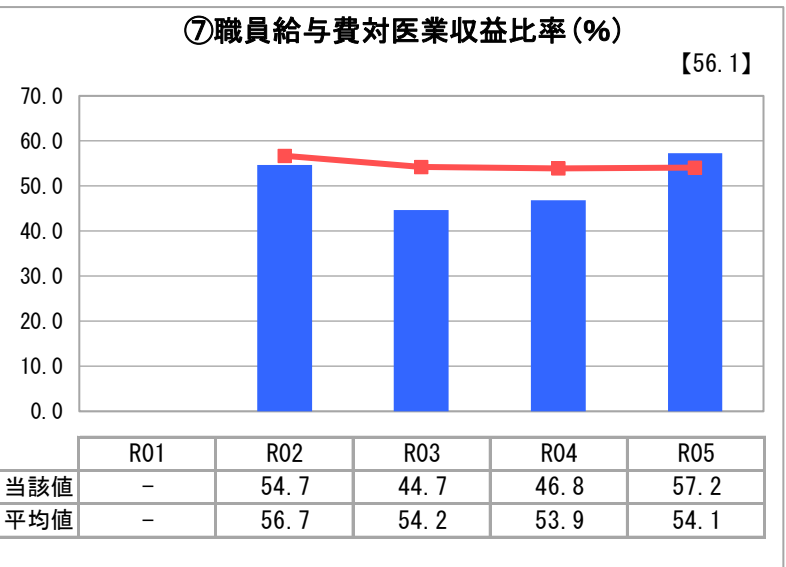
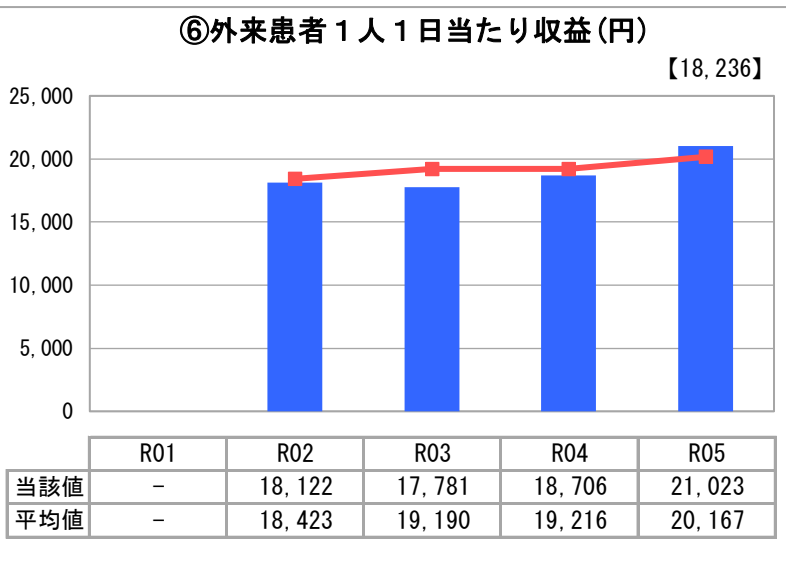
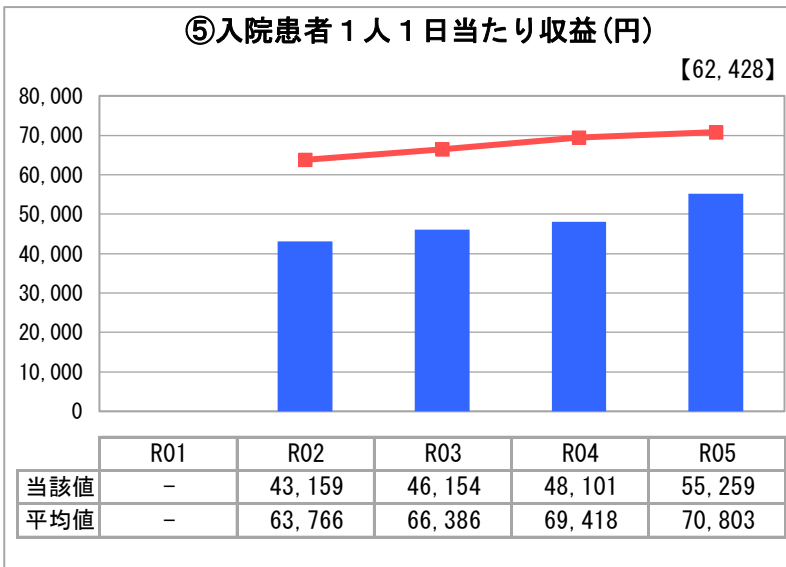
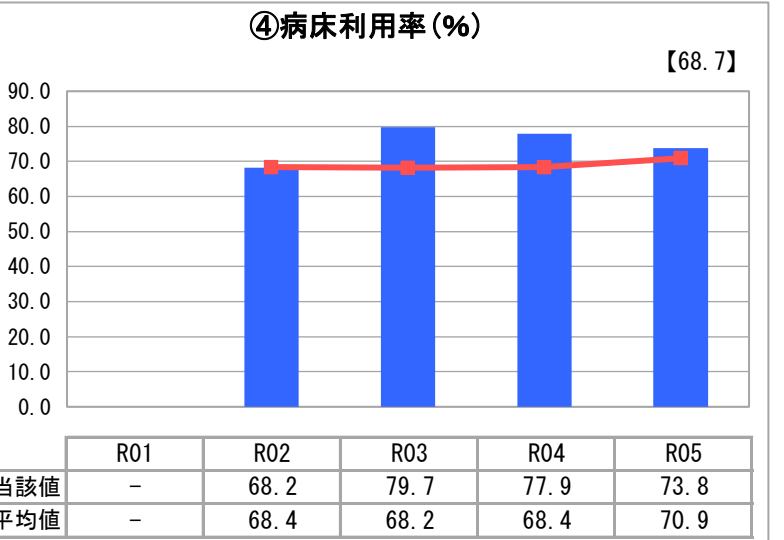
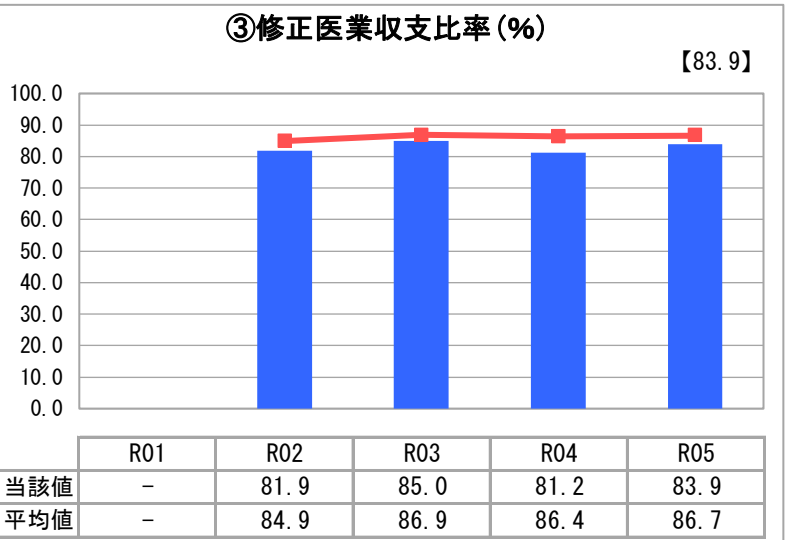
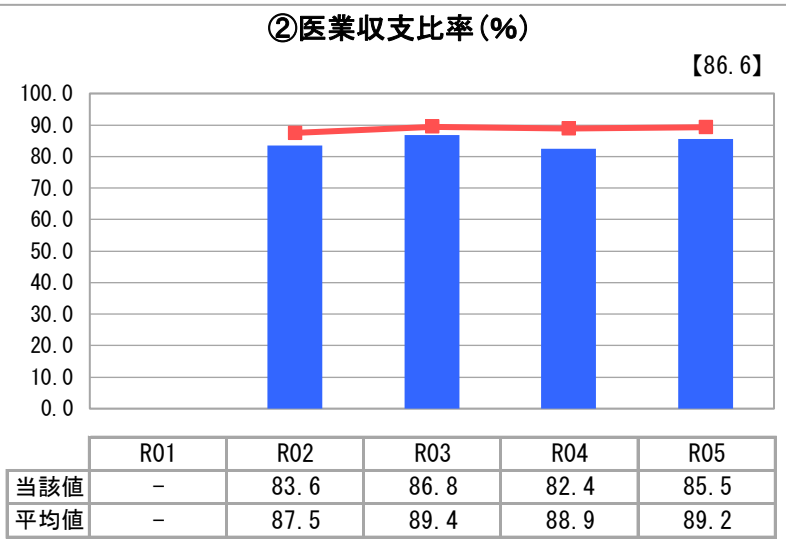
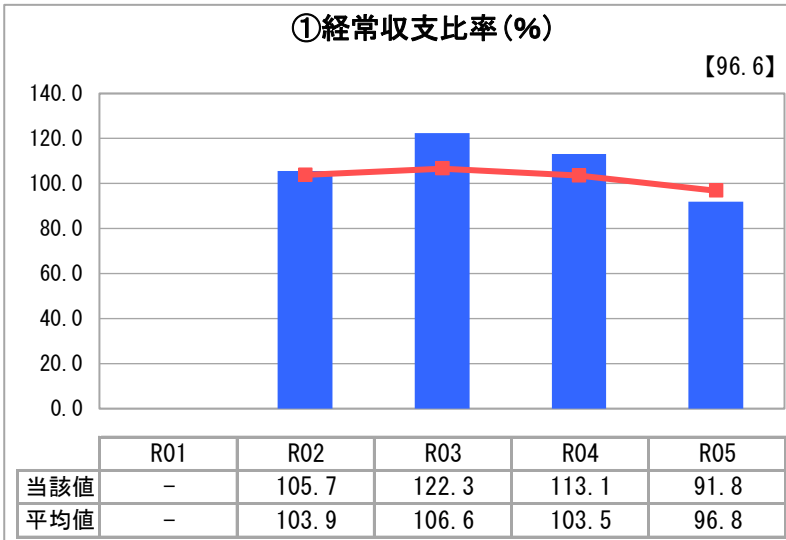
くまもと県北病院は令和3年3月に開院した新しい施設のため、当面の間は大規模な改修等は発生しません。医療機器更新や大規模修繕につきましては、計画的に実施する予定です。

全体総括

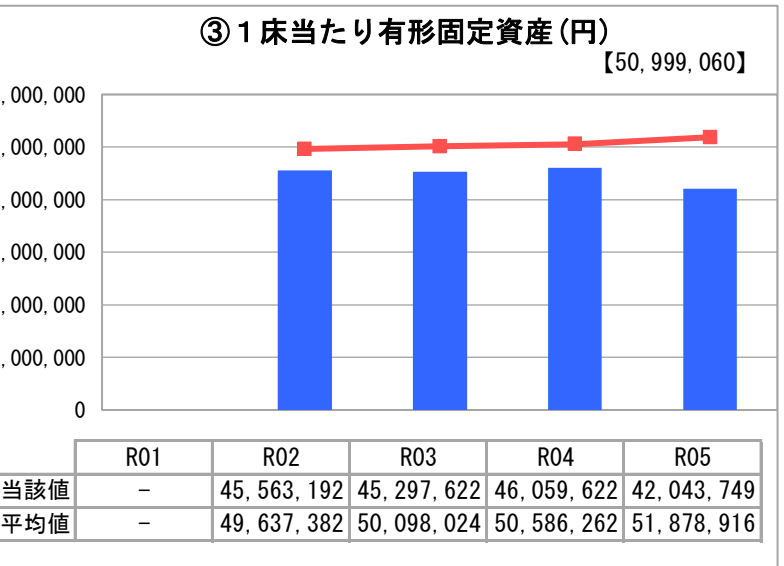
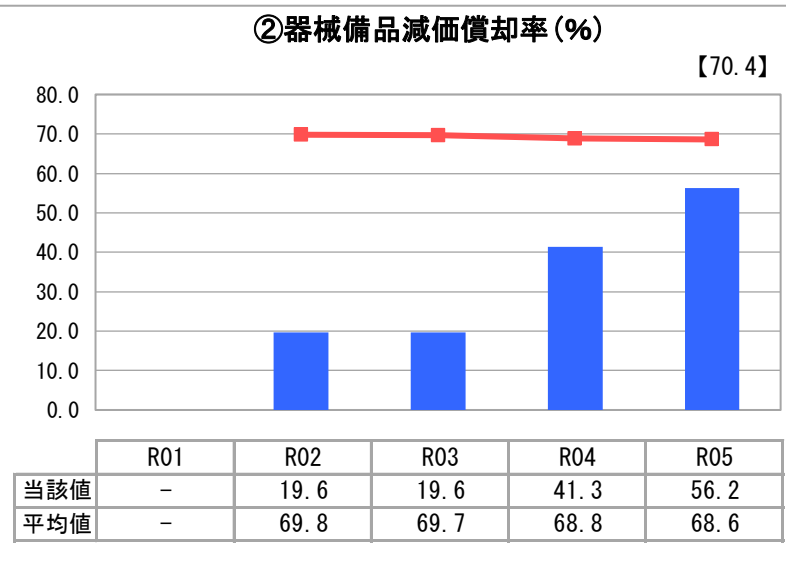
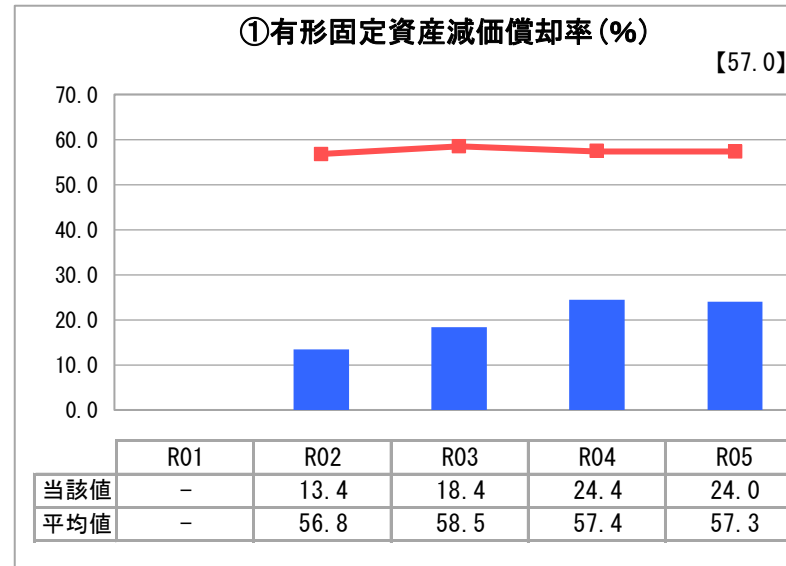
令和5年度の経営状況はコロナウイルス感染症が2類感染症から5類感染症に移行し、補助金が大きく減少した影響を受け厳しい状況となりました。前年に比べ医業収益は増加しましたが補助金の減少分を補うほどではありませんでした。補助金に頼らない経営基盤の構築が求められ、病院全体で更なる収益増加、経費削減に取り組む必要があると考えます。

第3期中期計画に基づき、医療サービスの充実、患者サービスの向上、医療提供体制の充実を実施し、効率的な運営管理体制を確立し、収益の確保と費用の節減を実施していきます。

1. 経営の健全性・効率性



2. 老朽化の状況



※「類似病院平均値(平均値)」については、病院区分及び類似区分に基づき算出している。